



ICT*AT*AAC*DX*etc.

GIGAびより



No.13
発行 2024.05
中原特別支援学校

★はじめに

本紙では、年間を通して、ICT等の機器を活用した取組を中心に紹介します。今年度最初は、コラム的に特別支援教育でのICT活用について書いていこうと思います。

ヘッダーロゴの中に「ICT」「AT」「AAC」「DX」という言葉があります。まずは、それらについて簡単に解説します。

【ICT】Information and Communication Technology:情報通信技術

一般的にネットワークにつながったパソコン(タブレット端末)、スマートフォンなどの機器を指します(ICT 機器)。

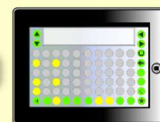
【AT】Assistive Technology:支援技術

障害による物理的な操作上の不利や、障壁(バリア)を、機器を工夫することによって支援しようという考え方であり、そのための支援技術を指しています(文部科学省「教育の情報化に関する手引き」より)。専用の機器のほか、パソコンやタブレット端末のソフトウェア(アプリ)もあります。

【AAC】Augmentative and Alternative Communication:拡大・代替コミュニケーション

話し言葉以外の手段を使って、コミュニケーションを行う方法のことを指します。

【AT】とも密接に関連しており、コミュニケーションを支援するための専用の機器(VOCA:音声出力型コミュニケーション支援機器)のほか、パソコンやタブレット端末のソフトウェア(アプリ)もあります。ただし、機器等を用いたものだけではなく、身振りやジェスチャー、サイン、絵カード、指差しなども【AAC】に含まれます。



【DX】Digital Transformation:デジタル変革

デジタル技術を用いて社会や暮らしがより便利になるように変革することを指します。単純にアナログをデジタルに置き換えるだけではなく、さらに、デジタルの特長を生かして、より効果や効率を向上させていくことが【DX】と言えます。学校教育においても、学習用の1人1台端末や製品、サービス等を活用して教育の質を高めることを【教育DX】と表すことがあります。

さて、特別支援教育での【ICT】の活用について、文部科学省は次のように視点を整理しています。

<視点1> 教科指導の効果を高めたり 情報活用能力の育成を図ったりする	<視点2> 障害による学習上又は生活上の 困難さを改善・克服する
この2つの視点を、本校では2年間の研究において、視点1を「分かる授業」、視点2を「できる学習」としました。	
<視点1> 分かる授業 (教師の活用の視点)	<視点2> できる学習 (児童生徒の活用の視点)
学習の目標(ゴール)が分かる 学習内容が分かる 学習方法が分かる 何をするのか、どうするのかが分かる 友達の考えが分かる など	学習目標に向かった活動に取り組むことができる 問い掛けや問題に答える(応える)ことができる 記録や記憶ができる することを表出・表現、実行できる 友達と考えを共有したり、比較したりすることができる など

いくつか例を挙げましたが、このように2つの視点は、切り離すことができません。例えば、発語が困難な児童に対し、ある授業で教師がどんなに「分かる」手段を講じても、児童の「できる」表出方法を保障しなければ、児童は「できた!」という達成感を味わうことができないかもしれません。また、表出が難しいことで「分かっていない」と評価される場合もあります。【ICT】の活用のみに対して当てはまることではありませんが、特に【ICT】を活用する上では、デジタルの特長を生かしながら「分かる」授業の工夫を行うとともに、【AT】や【AAC】として児童生徒が「できる」学習環境をつくるのが、特別支援教育における【教育DX】となるのではないのでしょうか。

1 令和6年度 ICTを活用した教育における取組目標

県立学校では、1人1台端末やデジタル教科書等を積極的に活用して、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善に取り組み、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を目指しています。特別支援学校では、ICTを活用した取組目標の1つを「1人1台端末を活用した子ども主体の学びの実現に向けた取組」の観点から設定しています。

【取組目標】

・ICTを用いた「分かる」「できる」環境づくり

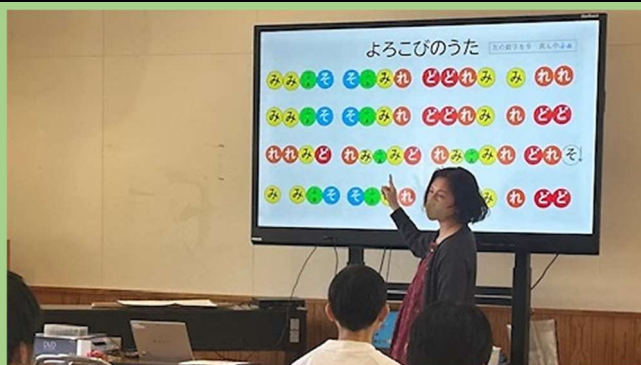
【設定理由】

児童生徒の学習目標や実態に応じて、教科指導の効果を高めたり、障害による学習上又は生活上の困難さに対する代替手段として活用したりするため。

「★はじめに」で掲載したように、特別支援教育ではICTを活用するときに2つの視点から整理することで、「分かる」「できる」ための、活用の目的や方法を明らかにすることができます。本来ならば、より具体的な目標設定が望ましいと思いますが、本校は“本校舎、分校舎の2つの校舎があり、小学部、中学部、高等部がある”こと、“病弱、知的障害、肢体不自由のある児童生徒が学び、かつ教育課程が様々である”ことを考慮し、大枠としての目標を設定しています。この目標のもと、各校舎、各学部、各学級で、児童生徒に応じた「分かる」「できる」につながる具体的な活用を行います。

2 取組紹介

(1) 高等部 知的障害通常の学級 音楽



視点1「分かる」

・電子黒板に題材の「よろこびのうた」の音階を色分けして示す。同じものを生徒の手元にもプリントで準備する。
・Webアプリ「ドレミア」(鍵盤ハーモニカアプリ)の設定を画面上に示す。



視点2「できる」

・1人1台端末(Windows)で、Webアプリ「ドレミア」を使って演奏する。
・電子黒板上に示された設定で演奏に必要な鍵盤のみを表示し、プリントと押さえる鍵盤を見比べながら演奏する。

(2) 小学部 知的障害通常の学級 国語



視点2「できる」

・1人1台端末(iPadOS)で、プリント学習で分からなかった漢字を自分で調べる。
・学習アプリ「ごじゅーおん」の追加キーボード機能を使って、平仮名を入力する。



ICT活用に係るご相談、研修依頼にも応じます

「ICTを使った学習支援、生活支援を知りたい」「機器やアプリを体験してみたい」など、お気軽にお問い合わせください。

【TEL】0942-94-3575

【Mail】nakabarutokubetsushien@education.saga.jp

【窓口】地域支援部 原野 ※お問い合わせの際に「ICT活用に係る相談」とお伝えください。

